



生駒市立鹿ノ台中学校

第8号

## 校長室だより

令和4年12月16日

### 「感謝」の心

11月の中旬頃から、ニュース・メディアを通して1番の話題となった FIFA ワールドカップ。日本代表は決勝トーナメントへと勝ち進み、クロアチアとの戦いは PK 戦という紙一重の勝負の末に敗れましたが、選手たちの勇姿はたくさんの方の称賛を浴びましたね。

そんな中、FIFA の公式ツイッターが、1次リーグの初戦で強豪のドイツに逆転で勝利し、引き上げたあとのロッカールームの写真を投稿しました。ロッカールームは整理整頓され、タオルなどもきれいにたたまれていて、机の上には「感謝」の折り鶴とともに、日本語とアラビア語で「ありがとう」と書き置きがあり、「歴史的な勝利のあとです。日本のファンがスタジアムのごみを掃除してくれた一方で、日本代表もロッカールームをこのような状態にして引き上げていきました。汚れ一つありません」とほめたたえ、「Domo Arigato (どうも ありがとう)」と、日本語のつづりで感謝のことばを書き込みました。対スペイン戦、そしてクロアチアに敗れた試合後も、大会への「感謝」を込め、同じように完璧にロッカールームを掃除しました。

また、試合後に会場のごみを掃除する日本のサポーターの姿も話題になっていました。開幕戦として行われたカタール対エクアドル戦の試合終了後、観戦していた多くの日本のサポーターが客席で率先してゴミ拾いをしていたのですが、称賛が広がったのは、日本が出場する試合ではないにもかかわらず、このような行動をしていたことについて、「尊敬に値する」「模範的な行動」などと声が上がっていました。ゴミ集めの青い袋の上部には「Thank you|ありがとう」と記され、隣にはアラビア文字、真ん中には円形に「SUSTAINABLE SUPPORTERS (訳 持続可能な応援者)」とアルファ

ベットがあり、一番下には「声援を永遠に」と日本語でつづられていました。「未来のために、今からできることはないだろうか」と環境問題に配慮して始まったこの行動。ゴミ拾いを「ファインプレー」と称し、ゴミ袋もリサイクル素材を利用したそうです。そもそも、日本のサポーターによる清掃活動は、日本が初めて W 杯に出場した1998年フランス大会までさかのぼるとされています。

こうして日本の選手やサポーターは、自分たちの「感謝」の心を「言葉」では伝えきれないとしても、「礼儀正しい行動」によって世界中の人に伝え続けてきました。「来た時よりも美しく」という日本にとっては当たり前前の「掃除の文化」が、これほど人の心を動かすのだということを教えてくださいました。

### 1年のしめくくりを

まもなく2学期が終了します。いろいろな行事を通して皆さんが上げた成果は、人によって少しずつ違うと思います。今学期の自分の成長の跡をぜひ振り返ってください。一つ一つの行事だけが切り離されて、成功した・失敗したというのではなく、その背景になる日々の学校生活がどうだったのか、毎日の1時間ごとの授業をどれだけ大切にしてきたかということが、目的を達成した充実感につながります。

新年を迎えるにあたり、この機会を生かして、新しい第一歩を踏み出したいものです。一歩成長した自分になるために、ぜひ「**次の自分はこれをやるぞ**」という決意をもってください。

3年生の皆さんは、いよいよ進路決定に向けて実動する時期となりました。心と体のコンディションを整えて、準備を進めてください。健闘を祈っています。

#### 保護者の皆様へ

平素は本校教育にご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

ご家族でゆっくり過ごすことも多い年末から年始にかけて、お子様と一緒に過ごしながら、対話する時間を多く持っていただけることを願っております。

第8波・インフルエンザの同時流行も懸念される時期となりました。健康にご留意いただき、充実した冬休みをお過ごしください。